

2017年3月17日

中国・ベトナムの漢文文献の中の南シナ海方面の記述について 補遺 26

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

昨年2月に刊行された『中国歴代海路針経』全2冊〔陳&朱 2016〕をようやく入手した。中国沿海および海域アジア諸地域の海上航路に関して中国人が残した諸資料を網羅した大変有益な資料集であり、南シナ海研究に対しても裨益するところ大である。ざっと目を通しただけであるが、知識人の著作だけでなく、沿海漁民の更路簿・水路簿を多数収録しており、中国人と海の道の関わりを総合的に把握することを可能にするものである。

この著作は若干の海域地図を載せているが、その中に『東洋南洋海道圖』『西南洋各番針路方向圖』という私が初めて目にするタイプの地図が2点含まれていた〔陳&朱 2016: 501-504〕。『東洋南洋海道圖』は1712 - 1721年に福建水師提督であった施世驃が康熙帝に進呈したものであり、『西南洋各番針路方向圖』は、1711年に福建巡撫に任命され1715年に閩浙総督に昇進した覚羅満保がやはり康熙帝に進呈したものである。両図はよく似ているが、前者に厦門から各地への航路の線が描かれているのに対して、後者には描かかれていない点が異なっている。

両図とも中国第一歴史档案馆が所蔵しているものであり、2000年に刊行された澳門一国両制研究中心選編『澳門歴史地図精選』（北京：華文出版社）に収録されて世に知られるようになった（私ほうかつにもこれまで気が付かなかったが）。

地図の構成や地形の輪郭は明らかに17～18世紀の西欧の地図・海図をもとにしたものであり、それに中国の航海者の海洋知識（港、航路）を漢字で書き加えたものである〔方 2016: 44〕。小さな図が付されているだけであるので、詳細な分析は不可能であるが、南シナ海上に、18世紀以前の西洋の古地図でおなじみの《想像上のパラセル》の図柄（縦長の囲みのなかを細かな点で埋めたタイプのように見える）が描かれているのは明らかである。中国の地図でこの図柄が描かれているものは、現時点で私の知る限り（!）、この2点のみである。しかも、この2点も皇帝に献上され、おそらく秘蔵されたものであろうから、中国における南シナ海の地図表現にあまり大きな影響を与えることはなかったのではないかと推測する。

陳佳榮&朱鑿秋主編.2016.『中国歴代海路針経』全2冊.広州：広東科技出版社.

方碧勇.2016.「厦門国際貿易古地図：《東洋南洋海道圖》」『福建史志』2016年第3期.